TADOKU JUNIOR 自然のふしぎ神話 ★★★☆☆ ふつう 296語

Aurora and Tithonus

アウロラとティトノス

Flora J. Cooke（1895年の本） 原文そのまま 朗読：Linette Geisel

人の声の朗読
を聞く・Web版

どんなおはなし？ 夜明けの女王アウロラは、大すきなわか者ティトノスが死なないようにと大王ゼウスにたのみますが、だいじなことをわすれてしまいます。

The beautiful youth, Tithonus, loved Aurora, the queen of the dawn. He was the first one to greet her each day as she drew back the purple curtains of the east.

He made his bed on the green grass in the meadow that he might not miss her coming.

Aurora grew to expect his welcome and to love the youth dearly.

One morning when she came Tithonus was not in his usual place.

As she looked anxiously around she saw him with pale face and closed eyes lying upon the ground.

She darted down to earth and carried his almost lifeless body to Zeus.

She begged the great king to promise that Tithonus should never die.

But alas, in her haste, she forgot to ask that he might forever remain young. Therefore he grew old and bent, and could no longer walk.

In misery, he begged to go back to the cool grass in the meadow where he had been so happy.

Aurora in pity said, “you shall go, my Tithonus. To make you happy is my dearest wish.

“You shall be free from all care.

“You shall not be a man, lest you be compelled to work for your food in your old age.

“You shall be a grasshopper, free to dance in the meadow grass all the long summer days.

“I have prepared a dress for you, which shall protect you well.”

Then she gave Tithonus the wonderful grasshopper coat of mail which had been unknown on earth until this time.

She tinted it a soft green so that he might not be noticed in the grass.

Tithonus went that day to live in the meadow and there, any summer day, you may find him and his family hopping merrily about in the sunshine.



美しいわか者ティトノスは、夜明けの女王アウロラが大すきでした。毎日、アウロラが東の空のむらさきのカーテンを引くとき、いちばんにあいさつするのはティトノスでした。

アウロラが来るのを見のがさないように、ティトノスは野原の緑の草の上にねどこを作りました。

アウロラも、ティトノスがむかえてくれるのを楽しみにするようになり、このわか者を心から大切に思うようになりました。

ある朝、アウロラがやって来ると、ティトノスはいつもの場所にいませんでした。

心配してあたりを見回すと、ティトノスが青い顔をして目をとじ、地面にたおれているのが見えました。

アウロラは地上へとんでいき、ほとんど息のないティトノスの体を、ゼウスのところへ運びました。

アウロラは、ティトノスが決して死なないようにすると、大王ゼウスにやくそくしてほしいとたのみました。

けれども、ああ、あまりに急いでいたので、ティトノスがいつまでもわかいままでいられるようにたのむのをわすれてしまいました。そのため、ティトノスは年をとって、こしが曲がり、もう歩けなくなりました。

つらくてたまらず、ティトノスは、あんなにしあわせだった野原のすずしい草の上にもどりたいとたのみました。

アウロラはかわいそうに思って言いました。「行ってもいいのよ、わたしのティトノス。あなたをしあわせにすることが、わたしのいちばんのねがいなのですもの。

「あなたを、どんな心配ごともない身にしてあげましょう。

「人間でいたら、年をとってから、食べ物のためにはたらかなくてはならないかもしれないから、人間ではなくしてあげましょう。

「あなたはバッタになるのです。長い夏の日のあいだずっと、野原の草の中で自由におどれるのよ。

「あなたをしっかり守ってくれる服を、用意しておきました。」

そう言って、アウロラはティトノスに、それまで地上にはなかった、バッタのすばらしいよろいをあたえました。

アウロラは、草の中で目立たないように、そのよろいをやさしい緑色にそめました。

ティトノスはその日、野原へすみに行きました。夏の日にはいつでも、ティトノスとその家族が、日の光の中で楽しそうにはね回っているのが見つかりますよ。

たんご と クイズ アウロラとティトノス

dawn 夜明け	**curtains** カーテン	**meadow** 野原
grasshopper バッタ	**green** 緑色	

Q1 アウロラがゼウスにたのみわすれたことは？

① いつまでもわかいままでいること　② お金持ちになること　③ 空をとべること

Q2 アウロラがよろいを緑色にしたのはなぜ？

① アウロラのすきな色だから　② 草の中で目立たないように　③ 夏にすずしいから

こたえ

Q1 ① 死なないようにはたのみましたが、いつまでもわかいままでいるようにたのむのをわすれてしまったのです。

Q2 ② ティトノスが草の中で目立たないように、やさしい緑色にそめたのです。

原田英語の多読ベストジュニア
本物の英語の絵本 1,000話以上を、原文・人の声の朗読・和訳つきで。ゲーム・なぞなぞも。ぜんぶ無料・登録なし。
haradaeigo.com/tadokubestjr/

出典　英文：原文そのまま（1語も書きかえていません）。Project Gutenberg 電子書籍 #30800（Flora J. Cooke、1895年）。パブリックドメイン。
挿絵：(1895 edition)（同じ本の初版の挿絵。パブリックドメイン）
朗読（Web版）：Linette Geisel（LibriVox のボランティア。パブリックドメイン）
和訳・クイズ：AIと人が作成。AIは 3 重チェック。人の目でも順次確認しています。